

乳児期の症状と喘息を経て受験期に顔症状が強くなった青年期アトピーの経過 (15 歳男性)

症例 ID：001-15-KA3 | 記録日：2016 年 10 月 22 日

1. 診断・治療前経過

生後 1 か月でアトピー症状が出始め、小児科でステロイド外用薬を使用しました。変化が乏しかったため外用を中止し、ワセリンを使用していました。

その後は喘息が出始め、喘息の薬を継続していました。中学 1 年時に知人の紹介で松本医院を受診しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後 1 か月頃にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期の短期間です。
中止時期	変化が乏しく中止し、その後はワセリンを使用しました。
来院前／後	来院前の乳児期に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 1 か月	来院前	アトピー症状が出始め、ステロイド外用薬を使用しました。
その後	来院前	ステロイドを中止してワセリンを使用し、喘息治療を継続しました。
中学 1 年	治療開始	松本医院を受診し、漢方治療を開始しました。
中学 3 年の受験前	リバウンド期	顔症状が強くなり、浸出液がマスクにつく状態となりました。
高校入学後	ピーク後	入学後しばらくまで強い状態が続き、部活動開始後に落ち着いてきました。
高校 1 年秋頃	経過中	夏休み後に再び悪化しましたが、記録時点では少し良くなりました。

4. ピーク時期

ピークは、中学 3 年の受験前から高校入学後にかけて、顔から浸出液が出てマスクの使用が難しかった時期です。

5. 困りごと

- 顔の症状と浸出液のため、マスクを着用しにくい状態でした。
- 高校受験と症状の強い時期が重なりました。
- 苦い煎じ薬を飲むことに慣れるまで工夫が必要でした。

6. 経過のまとめ

中学 3 年の受験前から顔症状が強くなり、高校入学後しばらくまで続きました。部活動開始後には一度落ち着きましたが、夏休み後に再び悪化しました。記録時点では症状は少し和らいでおり、治療を継続していました。通院の中で日常生活の負担が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。